

# 魔導物語 童話集

神楽

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

魔導キャラで童話をやってみたらどうなるんだろうと思ひまして。

出てくるのはよくんまでのキャラですが、フィーバー以降のネタもあります。

# 目次

第一章〜白雪姫〜

1



# 第一章く白雪姫く

——むかしむかし、とあるお城でそれはそれは可愛らしい女の子が生まれました。

母親「おーほっほっほ！この子が大きくなったらわたくしの技をたーっぷりと伝授しなければいけませんわ！」

父親「ふむ……。なかなか可愛いじゃないか」

彼女は雪のように綺麗な銀髪を持っているという理由から白雪姫と名付けられ、すくすくと育っていききました。

そして、彼女が14歳になった年のある日。

父親「おお！あれはカ……。鏡ちゃんじゃないか！よし、今から私の妃は一緒にいるあの娘だ!!」

母親「きい！あんちんちくりんよりもっともっと魅力的になってやるんだから！」

……という父親の身勝手な理由により母親は追い出され、城には新しい妃がやって

来ました。

父親「さあ白雪姫。今日からおまえの母親は彼女だ」

継母「ちつがーう！ボクは妃にも、母親にもならないよ！」

白雪「(さつきから感じるこの力は・・・まさかこいつか!?) お・・・」

「お？」

白雪「おま・・・じゃなくて、あなたが欲しい！」

継母「うわあ!?へ、ヘンタイ!!」

父親「おいシエ・・・じゃなくて白雪姫。いくらなんでも失礼だぞ」

白雪「ち、違う！俺はただ、彼女の力が欲しいだけだ！そしてヘンタイじゃない！」

\*\*\*\*\*

シエゾ「つて、ちよつと待てええええ!!なんで俺が姫役でここでも変態扱いされなきやいけないんだ!？」

ルルー「いいじゃないの白雪姫。それともシエリー姫の方が良かったかしら？」

シエゾ「はあ!?どつちも嫌に決まっている！」

サタン「そもそも何故こんなやつを娘に持たなくてはならないのだ……。普通アルルが白雪姫で私が王子だろう。そして星空のハネムーン☆やももいろパラダイス♪を我が城で楽しむのだ！」

ルルー「例え物語、それもあの変態魔導師が娘だとはいえサタン様と夫婦が演じられてわたくしは幸せでした……。心残りがあるとすれば、これが偽物の関係だということ……。(以下、妄想中)」

アルル「……。えーつとね、ボクが姫役の話は既に色々ありそうだから、つてことみたいだよ。シエゾが主役なのは誕生日だからお祝いにだつて」

カーくん「ぐっぐー！」

シエゾ「こんな誕生日プレゼントは嫌だ……」

ウィツチ「ところでアルルさん。ナレーシヨンのお礼はシエゾさんの服ということでしたわよね？」

アルル「うん、貰っていいよ♪」

シエゾ「っ?!?おいアルル・ナジャ、何勝手に……。つてうわああああ!!」